

成功事例

設計/エンジニアリング会社、Oracle EBSの 価値拡大と人事関連クラウドアプリの導入



会社概要：Atkinsは、設計、エンジニアリング、プロジェクト管理を事業とするコンサルティング会社で、エネルギー、運輸、インフラストラクチャの市場において、複雑なプロジェクトを多数手がけています。

業種：建築設計およびエンジニアリング

所在地：本社所在地は、ロンドン。世界23か国に178の事務所を置く

売上高：18億6,000万ポンド(約2700億円)

従業員数：18,050人

サポート対象プロダクト：Oracle E-Business Suite (EBS) 11.5.10、Oracle Database 11.2.03、Oracle Internet Application Server、Internet Developer Suite

ATKINS

「リミニストリートのおかげで、当社のコアになる、ハイブリッドによるIT戦略を実現することができました」

Randy Martin氏

コーポレートシステム担当責任者
Atkins

「プラン、デザイン、アクション」を理念とする英国の大手エンジニアリングコンサルタントのAtkins社は、ヨーロッパでも4番目の規模を誇ります。

課題

世界の設計/エンジニアリングプロジェクトの中でも特に複雑なプロジェクトが、Atkins社の主要事業となっています。そのため、同社の事業を支える重要なツールとしてOracle EBS Projectsアプリケーションが採用されました。数年で急速な成長を遂げたAtkins社は、北米での事業展開のために、1年半をかけてEBS 11.5.10の導入と、そのカスタマイズを行い、2008年から運用を開始しました。

「Oracle Projectsは非常に拡張性に優れています。カスタマイズ性ではなく拡張性を強調したのは、コードに手を加えなくても、アプリケーションのフレームワークのなかでカスタマイズできるからです」とコーポレートシステム担当責任者、Randy Martin氏は説明します。「収益から労務の原価計算にいたるまでのあらゆる領域に、それぞれ固有のロジックを数多く組み込みました。その結果、当社のビジネス要件を十二分に満たすアプリケーションの構成を実現することができました」。

2013年、Martin氏のチームは、Oracleを利用する多くの組織と同じ状況に立たされることとなります。EBS 11.5.10のサポートがSustaining Supportになったのです。これは事実上のサポート終了を意味します。チームはEBSが安定していることに大いに満足しており、EBSのパフォーマンスは、Atkinsが必要とする要件を満たしていたのです。そこでチームは、対応策として、システムをアップグレードする方法とERPの従来のアップグレードサイクルを離れて独自のロードマップを展開する方法を比較検討しました。

その当時、R12へのアップグレード、すなわち、Oracle Fusion Cloudを使用する全く新しい実装プロジェクトに取り組むには問題がありました。事業の観点からアップグレードを正当化することができませんでした。ROIを見込めなかったのです。Martin氏は語ります。「オラクルがレガシー製品にまとまった投資をするはずがないことは明らかでした。EBSシステムの強化にはあまり関心がなく、投資の多くをクラウドビジネスモデルに振り向けているのは間違いないようです」。

実はAtkinsもハイブリッドによるIT戦略に取り組もうとしていました。人材管理や給与、求人、福利厚生に関する業務を対象に、一連の新たなクラウドベースのアプリケーションを実装し、既存のEBSシステムを強化したいと考えていたのです。「コアとなるハイブリッドITのガイドラインを定義しました。クラウドを利用すべきでないとする納得できる理由がない限り、新しいシステムはクラウドで構築することにしました」。Martin氏はそう語ります。

メリット

- 高額なEBSのアップグレードを回避：将来、事業にとってアップグレードが必要となったときに、アーカイブして管理しているプログラムを使ってアップグレードが可能
- 年間のサポートコストを50%削減：節約した予算を他のビジネス領域の革新に利用できるようになった
- 非常に迅速なサポートサービスの提供：カスタマイズされたコードもサポートされるようになった

「もしもR12のOracle EBS Projectsに切り替えていたら、アップグレードの作業だけで大量のリソースを消費することになっていただいでしょう。システムを安定させてプロセスの変更まで行うとなれば、さらに時間と労力を要していたのは間違いありません。11.5.10を使い続けると決断したことで、あらためて、もっと重要なプロジェクトにリソースを割り当てることができるようになりました」

Randy Martin氏

コーポレートシステム担当責任者
Atkins

詳細情報

Atkins社の詳細またはその他の成功事例については、www.riministreet.com/jp/clientsをご覧ください。

Atkinsは調査を進め、第三者が提供する、EBSのサポートソリューションがあることを突き止めました。このソリューションなら、ビジネス目標の達成が可能になります。EBS 11.5.10を中心にイノベーションを実現できるほか、合法的な方法でアップグレードを行うこともできます。これらの優先事項に対応できること以外にも、Atkinsがリミニストリートのサポートを採用するにいたった理由があります。それは、Martin氏の次の言葉に表れています。「リミニストリートならきっと、包括的かつ迅速なサポートを提供してくれるだろうとの結論に達しました」。

ソリューション

EBSのサポートに加え、OracleデータベースやOracle Fusion Middlewareのサポートもリミニストリートに切り替えただけで、チームは、使用しているすべてのOracle製品について、従来よりも質の高いサポートが受けられるようになりました。

そればかりではありません。Atkinsは自社のリソース配分の在り方を変えることに成功しました。自社でのサポートを止め、不要なアップグレードを回避して、節約できた予算を革新のために利用できるようになったのです。ERPの基本部分の問題について迅速なサポートが得られるようになっただけでなく、EBSのカスタマイズ部分のサポートにリソースを割く必要もなくなりました。

「オラクルのサポートでは、カスタマイズした機能の場合、いつも問題を避けて通っているようなものでした。障害対応でなにかカスタマイズが見つかる、決まってオラクルは、『アプリケーションの一部がカスタマイズされているのでサポートができない』、あるいは『カスタマイズが原因で障害が起きているのではないことを明らかにするにはカスタマイズしている機能を無効にする必要がある』というのです」とMartin氏は述べています。これでは、自社でサポートを行うしかありません。そのため、保守コスト全体が膨らむ結果となりました。

Martin氏は語ります。「リミニストリートの場合、実際にサポートサービスを利用する前から、サポートプログラムのコアとなっているのがカスタマイズ部分のサポートであることは明らかでした。Oracleのコードの問題なのか、我々が拡張したカスタマイズした機能に問題があるのかといったことを判断する手間はかかりません」。

結果

ERPの基本的なサポートや保守に使われていたITリソースが開放され、付加価値の高い業務に利用できるようになった今、Atkinsはテクノロジープラットフォームの拡張によるビジネスの拡大に着手しています。「ERPを中心に据え、それを取り巻く形で、特に人事や人材管理の分野にはクラウドを活用し始めており、福利厚生に関する業務では、Choicelinxを使用しています」とMartin氏は述べ、さらに、「ADPも利用しており、クラウド型ソリューションの利用が増え始めています」と付け加えます。

人材管理に関する業務で、Atkinsは、Oracle Taleoや、Cornerstoneを利用し始めています。Atkinsでは、ハイブリッドITのアプローチを展開することで、俊敏性や即応性を高めています。

Martin氏によると、リミニストリートの保守サービスに切り替えて以来、Atkinsとオラクルの関係は疎遠になるどころか深まっているそうです。テクノロジースタックについて話し合う機会が得られ、オラクルのクラウドアプリケーションも利用できるようになっているとのことでした。「ほとんどの人が、オラクルのサポートを利用し続けたほうがリスクは軽減されるのではないかと考えているようです。あるいは、オラクルがシステムの保守やクラウドへの移行を妨害するのではないかと考える人も少なくないでしょう。しかし、そういった考えが正しくないことがわかりました。オラクルと当社の関係はこれまで以上に良好なものとなっています」とMartin氏は語ります。「全体として見ると、リミニストリートに切り替えた効果としてまず挙げるべきは、戦略的な取り組みにリソースを再配分できるようになったことです」。

日本リミニストリート株式会社

〒163-1030 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワーN30階

電話:03-5326-3461 FAX:03-5326-3001

contactjp@riministreet.com www.riministreet.com/jp

©2016-2017 Rimini Street, Inc. All rights reserved. Rimini StreetおよびRimini Streetロゴは、Rimini Street, Inc.の登録商標です。その他すべての名称は、それぞれの所有者の商標です。